



キンクロハジロ

《私が子どもだった頃（後編）》 六浦3丁目在住 高桑 正敏

六浦小学校の受難

私が通っていた六浦小学校は、2度にわたって大きな被害を受けた。

3年生のときだったか、横浜市立大学の北隣にあった東洋化工の工場が轟音とともに爆発し、爆風で校舎の窓ガラスのほとんどが割れた。ちょうど授業中で、舞い上がった埃のために一瞬にして教室が煙幕状になった。顔や頭から血を出していた者もいた。訳のわからぬまま校庭に避難し、それから連れだって大道小学校に向かった記憶がある。私は額から少し血が出ていた程度ですんだが、重傷を負った級友もいた。自宅もまた窓ガラスが飛び散って悲惨な状況だったが、不幸中の幸いと言うか、祖母が顔をちょっと怪我しただけですんだ。死者も出たことであり、新聞やテレビでトップニュースになった。

大学生のとき?には校舎が火事に遭った。私はたまたま家にいて、その様子を見に行った。昼間の火事ではあったが、真っ赤に高く上がる炎は恐ろしい光景であった。木造2階建てであったためにほとんど全焼してしまっただが、これこそ幸いと言う



キンクロハジロ（金黒羽白）

学名： *Aythya fuligula*

ユーラシア大陸北部で繁殖し、冬になると渡ってくる。

金の目（黄色い虹彩）、黒い身体、羽根が白（初列風切の上面に白い斑紋）と、実にわかりやすいネーミング（笑）頭の後ろにある冠羽も特徴で、冬になると様々なカモが渡ってくるが、ひときわ目立ってわかりやすい。海ガモの仲間、水中に潜るのが得意であり、貝などを捕って食べたりする。

侍従川ではここ数年で見られるようになったが、数は少ない。

解説：山田陽治

か、ようやく新しい校舎となった。人的な被害はなかったと思うが、隣接する養鶏場にも燃え広がって、たくさんのニワトリが犠牲となっただらしい。

西ヶ谷戸の外の思い出

小学校でも評判だったというほど昆虫少年の私は、西ヶ谷戸の外に出ることはあまりなかった。人にはお茶ら気者に映ったらしいが、じつは内気な性格だったので、自分の域外に出ることをためらったのかもしれない。

西ヶ谷戸からトンネルの向こう（現在の釜利谷南や釜利谷東）は、宮川の1支流を伴う細長い谷戸となる。ここは小学生の頃は一面に水田が広がっていたが、時代を追うごとに畑が増え、建物も立つようになった。水田は「農薬につき立入禁止」のような立札があったので、相当に強い農薬がまかれていたのだろう。遊んだのは主に川の中で、手子神社付近までがテリトリーだった。ここにはウナギもすんでいた。



ベッコウトンボ

宮川は谷津町方面からの川と合流し、平湯湾に注ぐ。このあたりは小学生の頃までは泥亀新田と呼ばれる広大な湿地で、水田やハス田、ヨシ原が広がっていた。ベッコウトンボもいたという。自宅からは遠かったが、何回か歩いて行った。しかし、中学生になった頃からは大規模に埋め立てられ、最後まで残った金沢高校（私の母校）と横浜市立大学前の湿地も、高校入学時（1963年）には工事のために立ち入り禁止となってしまった。高校の生物部で泥亀新田のちゃんとした調査をしようと思っていたので、ひどく落胆したことを鮮明に覚えている。風光明媚な場所として知られていた金沢八景の、「八景」が次々と失われていった頃でもある。

侍従川流域に戻ろう。朝比奈付近から現在の釜利谷西方面は、それこそ西ヶ谷戸にすむ小学生にとっては山奥だった。せいぜい遠足？で朝比奈切通しを歩いたくらいであったと思う。ただし、中学2年の冬からはたびたび山に入るようになった。六浦中学校に平沢愛三という副校長が赴任し、私にシダ植物を指導してくれたので、昆虫が見られなくなる晩秋から早春にかけてはシダ調査に熱中し、金沢区南部から横須賀市・葉山町一帯の山々を歩くことになったからである。ただ、池子との境は鉄条網が張り巡らされていたし、中に入ると軍犬が襲うというウワサを聞いていたので、中学生になっても鉄条網沿いの道を歩くにも怖かった思いがある。

間近に見える鷹取山も、頻りに訪れるようになったのは中学生以降である。最初に訪れたのは小学生高学年のときである。神武寺駅から登ったが、境内の茶店のおばさんに寄っていくように誘われ、何を食べたか記憶にないが、とにかく帰りの電車賃がなくなって、泣きたい気持ちで歩いて帰った。

おわりに

私事だが、小学校2年生のときに交通事故に遭って頭を強打した（ぶつけた車のフロントが凹んだ）。そのせいだろうか、幼い頃の記憶がおぼつかない。もし私の思い込みや勘違いで記したことがあったらご容赦いただきたい。

もっとも今は60も半ばなので、近い過去すらも忘れ去ってしまうことが多い。余計なことまで言えば、老練になったせいか、都合の悪いことはなおさらである。

おわり

侍従川浚渫工事について

細川 一雄

神奈川県横浜川崎治水事務所との打合せ、県会議員の広報紙等により、侍従川の浚渫工事概要が分かりましたので、簡単に報告します。

1. 侍従川の浚渫工事概要（国吉一夫 広報紙第56号 平成24年11月発行 より抜粋）

- (1) 県は、侍従川の治水の安全度を高めるため、平成19年度から河床に堆積した土砂の浚渫を行っています。
- (2) 平成19年度から23年度の5年間で、河口部から約280mの区間の浚渫工事を実施しました。
- (3) 平成24年度（本年度）は、7月から10月末迄の期間で、関東学院大学付近約340mの区間で、約5000m³の土量を掘削しました。
- (4) 平成25年度以降は、関東学院大学前付近から、順次、上流に向かって浚渫工事を行い、京急逗子線橋梁付近（潮見橋下流）までの約780mの区間を概ね2～3年の期間で工事が行われる予定です。
- (5) また、上流域の大道東橋から大道橋までの約600mの区間については、河床に堆積した土砂のうち、水面より上に堆積した部分の土砂の撤去を平成24年から実施する事になっています。
⇒ 一番生き物が豊富で、地元の小学生たちが川に入り、自然環境を体感している区間ですが、地域住民から苦情が出ているという事で毎年草刈りが行われています。
- (6) 国吉議員は侍従川の貴重な自然環境の保全を十分考慮しながら地域の方々の安全の確保に努めています。

2. 神奈川県横浜川崎治水事務所から提示された侍従川上流部の浚渫工事概要（平成24年11月8日）

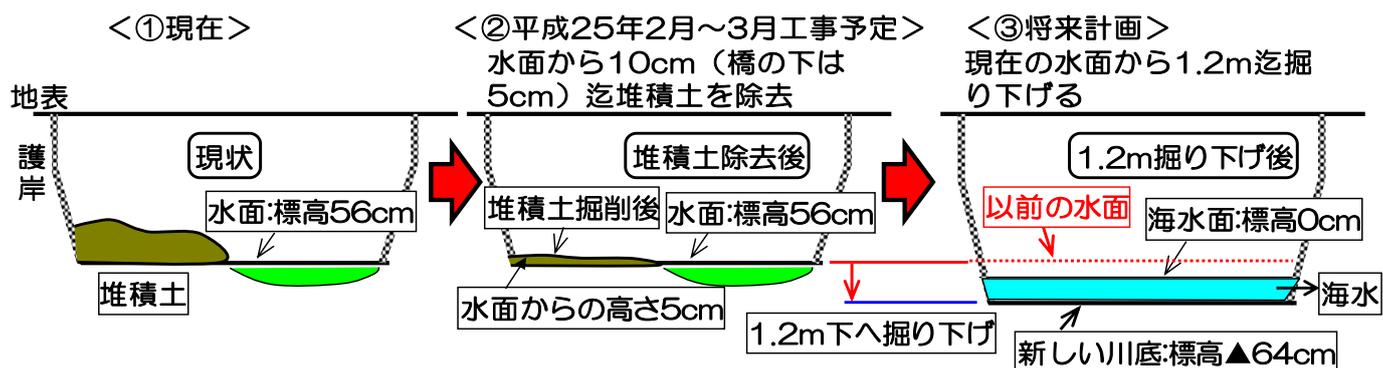
- (1) 堆積土の除去工事概要

- ①平成24年度は、大道東橋上流から山王橋までの区間の堆積土除去工事を行う（上記1. (5)の部分の工事）。
- ②水面から出ている部分の堆積土を除去するが、侍従会、及び各小学校の先生から「現在の侍従川は川の生き物に触れる非常に良い場所であり、子ども達も川に対し愛着を持っているので少しでも今の環境が残るように配慮して欲しい」との要望が出された結果、堆積した土は10cm（橋の下は5cm）残す様に検討する事となった。
- ③工事期間は、川の中に重機を入れて作業を行うため、渇水期の平成25年2月から3月頃を予定している。
- ④区間内にある水草などは、堆積土の除去作業でなくなってしまうが、工事前に根などを掘って保管できるものか検討する。

(2) 上流域の浚渫工事概要

- ①堆積土の除去とは別に将来的に侍従川の排水能力 $50\text{m}^3/\text{秒}$ を確保するためには、河床を掘削する必要がある。
- ②下図の例のように長島橋地点だと現在の水面から1.2m下まで掘削する事になります。その場合、現在の河床がT.P.+0.5（標高0.5m）ですが、新しい河床はT.P.-0.6（標高マイナス0.6m）となり、川底が東京湾の平均海面より0.6mも低くなります。（T.P.は東京湾平均海面といい、東京湾の平均的な海面高さのことで、全国の標高の基準となります（標高0.0m=T.P.））
- ③同様に大道橋までの河床を掘り下げていくと、大道橋までの川底が全て標高より低くなります。
- ④治水事務所の説明からすると、工事後は海水が常に流れ込むようになり、川ではなく細長い入り江状態になると思われます。また、掘り下げた範囲の川の流れがゆるくなる事で河床にはヘドロが堆積してしまうおそれがあると思われます。また、生物の多様性も何もかも無視するような工事であり、川に棲息する虫や淡水魚、爬虫類、植物などは全て居なくなってしまうと危惧します。

長島橋断面



ハゼ釣り大会

【活動報告1】

9月9日（日） 9:00～

重田優香（小6）

9月9日の日曜日に、ハゼ釣り大会が行われました。
参加者は、大人子どもあわせ40名ぐらい。
この日は、下流が濁っていて釣りにくかったですが、なんとか魚を11匹釣れてよかったです。
今年は料理人の方に、今までとは違う本格的なさばきかたを教えていただいたのが嬉しくて頑張ってほとんどの魚をさばきました。
ハゼだけでなく、ほかにとれた魚やクレソンを天ぷらにして食べました。
とてもおいしかったです！
楽しい1日だったので、また来年も参加したいと思いました。



9月定例クリーンアップ

【活動報告2】

9月30日（日） 9:00～12:30 快晴28℃

朝比奈橋～大道東橋（ゴミ拾い）、里野橋～青木橋（草刈り） 細川一雄

参加者：長橋輝明、西澤博厚、八木場紀元、石塚正夫、角田繁、外川忠志、山田陽治、
鳥越昌三、鳥越典子、鳥越珠貴、鳥越龍、金澤瑛士、中野航、柴田真穂、
梶原祐月、時津彩子、細川一雄（計17名）

台風18号が東日本の東側を通過し、超大型の台風17号がまもなく愛知県に上陸した当日、天気を心配しながらクリーンアップ作業を開始しました。

今回は、鳥越さんが家族4人で参加してくれるなど、山田さんがメールでクリーンアップ参加を呼びかけてくれたので、子供たちが多く参加してくれました。そこでお父さん・お母さんと子供たちには大道東橋から二の橋までを、山田さんと魚を探りながらゴミを拾ってもらおう事にして、いつものメンバーは上流域の草刈りを行いました。



ちとせ園の前で餌を探すコサギ

里野橋から川に降り、一人が朝比奈橋まで遡りゴミを拾いながら下ってくる事にして、他のメンバーは先月の草刈り作業の続きを行います（青木橋から青木橋の一つ上流の橋の間の草刈り作業）。

ゴミを拾いながら下ってくると、お好み焼きの道頓堀の駐車場の下に、火が付いたまま川に投げ捨てたと思われるタバコの吸い殻が多く見つかりました。多分従業員か客がタバコを吸ってそのまま投げ捨てていると思います。

草刈り作業は台風が運んでくる温かく湿った空気のため少し作業をすると直ぐ汗が流れてきます。しかし、午後は超大型の台風17号が来ることが分かっているため、刈り取った草は紐で縛って川からあげる必要がありますので休んでもいられません。10時頃に外川さんが軽トラックを持ってきてくれましたので、先月刈り取った草と、今回刈り取った草を川から揚げ、県営住宅跡地に運んでもらいました（先月分の草はすっかり乾燥していて軽くなり、持ち上げるのが大変楽でした。逆に当日刈った草は水分があるため重たくて持ち上げるのにも一苦労でした）。

県営住宅跡地には大道小学校の生徒が行った清掃作業のゴミ袋（13袋）と、それに便乗して誰かが捨てていったミシンと大きな3つの袋に入った布団が置いてありました。

台風17号の接近も心配でしたので今回は早めに作業を終了し、11時30分にはちとせ園に帰りました。そこで山田さんのグループと合流すると、10cmほどのハゼが数匹ケースの中に。子ども達が捕まえたようです。

その後、旬の秋刀魚をバーベキューのコンロで焼いて秋刀魚パーティを開催し、2時に解散しました。



青木橋上流の草刈り実施中



青木橋上流の草刈り終了後



回収したゴミと刈り草
（先月分と今月分）



ちとせ園で秋刀魚パーティーの準備

10月定例クリーンアップ

【活動報告3】

10月28日(日) 9:00~11:30 曇りのち雨

朝比奈橋~二の橋(ゴミ拾い)、大道橋上流(草刈)

細川一雄

参加者：西澤博厚、八木場紀元、石塚正夫、角田繁、村田章夫、石渡博、寺尾勝廣、佐野真吾、玉利海太郎、細川一雄(計10名)

午後は雨が降るとの予想にせつつかれるような気持ちで作業に向かいます。6月からたった3ヶ月で大分草が伸びてしまった大道橋上流の草刈りを行いました。

今月は大道小学校に今年赴任され、伊藤先生に指導を受けている玉利先生が参加してくれましたので、私たちが刈り取った草の束ね作業を、佐野さんには大道橋から上流のゴミ拾いを担当してもらいました。

広い場所ですので久しぶりに草刈り機の出動です。グーンという大きな音を立てて草を刈り取っていきますが、草が倒れているためなかなかうまく根元から刈る事が出来ません。西澤さんが刃先をうまく動かし上手に草を刈っていきます。他のメンバーは草刈り機から少し離れた場所でカマを振るって草を刈っていきます。

大道橋上流には大きくなったジュズツコが沢山生えていて、大きなものは高さ2mほどになっています。またセイタカアワダチソウも大きくなりカマで切るのに一苦労しました。30分ほどの作業でうっすらと汗が滲んできます。

何回か休憩して作業をすすめていると、雨がポツポツと降ってきました。雷雨になるとの予想でしたので、何時でも作業を中止できるように草刈り作業をやめて、刈り取った草を束ねる作業を行います。それでも雨足が強くなってきましたので、刈り草が流されないように束ねた草をまとめて護岸の上部に置き、急遽作業を中止しました。



大道橋上流の草刈り作業



大道橋上流(草刈り後)



大道橋の上流方面(束ねて護岸に立てかけ)



回収した4袋のゴミと
スケートボード

11月定例クリーンアップ

【活動報告4】

11月25日(日) 9:00~11:00 晴れ

朝比奈橋～二の橋(ゴミ拾い)、大道橋上流(草刈り)

細川一雄

参加者：長野政治、長橋輝明、西澤博厚、八木場紀元、
角田繁、村田章夫、細川一雄(計7名)

この冬一番の冷え込みの朝、家々の屋根には白い霜が降りていて如何にも寒そうな景色でした。寒さ対策に下着を何枚も着込んでちとせ園に行きましたが、風が余り吹いていないのが救いでした。

今回は、先月2回行った大道橋上流部分の草刈りの草を川から揚げて回収する作業と、大道橋上流部分に多少残った草刈り作業を行いました。これで大道橋上流部分は今年2回草刈りを行った事になります。

7名と少ない人数でしたが、外川電機さんから軽トラックを借りられましたので、早速束ねておいた草(大分枯れて軽くなっています)を川から揚げます。先日の雨で多少は濡れていましたが、刈り取った直後の草の重さとは比較にならないくらい軽くなっていて、ロープも余り使わず、片手で持ち上げてトラックに回収します。

長野さんが「草の回収くらいなら手伝える」と云って参加してくれましたので、トラックへの積み込み作業の手伝いと、トラックの回りに落ちた草の掃除をお願いしました。やはり作業を分担できると非常に能率が上がります。

また、引き揚げ作業と並行してわずかに残った草を西澤さんが草刈り機で刈っていきます。

トラック3台分の草を揚げて草刈り作業は終了し、ゴミの回収作業に移ります。

何名かが上流の朝比奈橋までゴミを拾いながら遡り、残りのメンバーはちとせ園までゴミを回収しながら下っていきます。また、拝借したトラックの荷台を掃除して外川電機さんに返して作業を終了しました。



回収した3袋分のゴミと、トラック3台分の草



消防団が吊り下げた止水板が腐ってぶら下がった状態(諏訪の橋上流)



里野橋横のゴミ集積所にポスター掲示



ゴミ集積所のゴミが落ちて散乱(里野橋)

11月上旬、美術活動でオーストリアのウィーンに滞在し、キノコ事情もおもしろく体験した。



ウィーンの森からの展望



ウィーンの森内

植生、木々の様子は北海道や東北地方に似ている。西洋ブナやナラ類が主であり、色づきキノコも晩秋の行進というところ。日本でもおなじみのキノコや似たものが多く森にいと遠くを旅している感じがなくなりそうだ。

それぞれのキノコに好む条件、適地性があり、合うと巨大化する。

ナラタケは傘が30cm近くまで成長しお化けシイタケのようになり、株立ちでポコポコしている。古くバクサレ化も多い中、若い株も・・・。



ナラタケ大株



ナラタケ若株

クリタケは若い株で見事なもので、毒のニガクリタケほどの苦さではないが、かむと特有の苦みを感じられた。



クリタケ



ナメコ近似種

ナメコの近似種は強いぬめりがあり、ブナの倒木上に生育。食用の可能性が高いが、現地の書で確かめる必要あり。

キクラゲはほぼ日本産と同種のような。ブナ科の枯れ木上。ヒラタケは2010年12月にウィーン・プラーターの林で巨大化して凍りついたのを見ている。



キクラゲ

20号特別企画
イラストで振り返る“だぼはぜ通信”

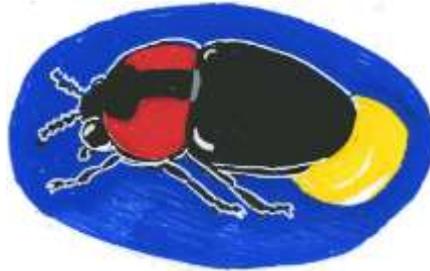
1号

アスマヒキガエル号



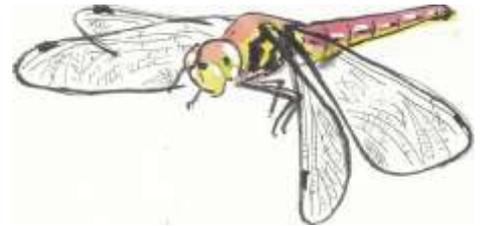
2号

ゲンジボタル号



3号

アキアカネ号



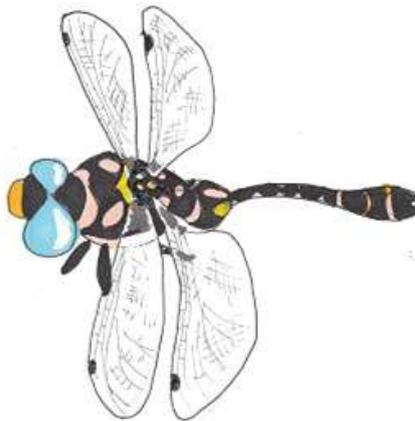
4号

オナガガモ号



5号

タビトサナエ号



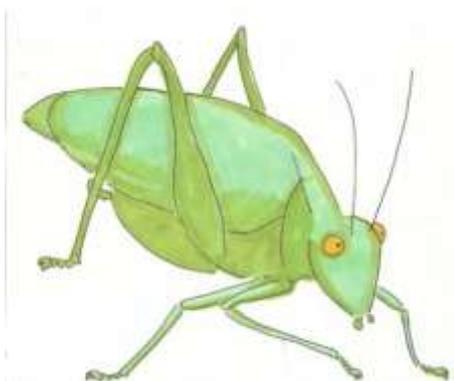
6号

オミソシメ号



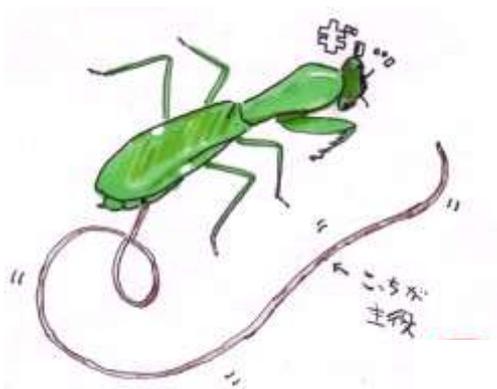
7号

サクダマキコト号



8号

**ニホンザラ
ハリガネムシ号**



9号

ウラシマソウ号



10号

シウカイボシ号



11号

ドクツルタケ号



12号

松材ノコギリ号



13号

シュレーゲルアオガエル号



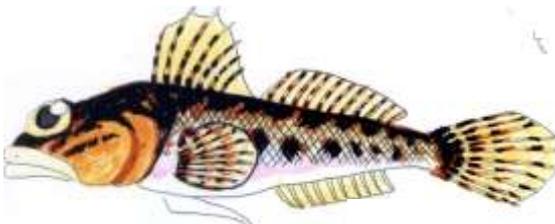
14号

アシハラガニ号



15号

マハゼ号



16号

シウビタキ号



17号

アサリ号



18号

ニホンアマガエル号



19号

ニホンマムシ号



侍従川生き物図鑑 No.18

～ オオアオイトトンボ ～ (イトトンボ科)

学名: *Lestes temporalis* 体長: 41～51mm



侍従川中流域から上流域の谷戸で見られる大型のイトトンボで、数はそれほど多くはありません。水辺からかなり離れた草地でも見ることができるようですが、

活動する時期は長く5月下旬から12月まで見られます。

監修：熊井（中継在住）

トピックス

◎9/10（月）六浦小学校3年生 侍従川探検

◎9/13（木）大道小学校侍従川清掃 →

◎9/26（水）高舟台小学校5年生 侍従川質問会

◎9/28（金）高舟台小学校5年生 侍従川調べ

◎10/3（水）高舟台小学校5年生 侍従川調べ

◎10/10（水）高舟台小学校5年生 侍従川調べ

◎10/13（土）金沢水の日「侍従川水族館」展示のための魚捕り

◎10/14（日）金沢水の日…侍従川水族館展示

◎10/25（木）大道小学校4年生 侍従川レクチャー



琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～ ～ タイワンウチワヤンマ ～

学名：*Ictinogomphus pertinax* 体長：46～56ミリ

分布：琉球列島、九州、四国、九州、台湾、中国



名護市 6月

本州では少なく馴染みのないトンボですが、沖縄島では池や緩やかな川でたくさん見ることができます。名前の“ウチワ”は尾の先端が団扇のように平たくなっていることから由来しています。羽化の際、幼虫(ヤゴ)は木に登るのではなく、池の岸に這い上がって、木の芽が生えるような形で羽化をします。

監修：熊井（沖縄在住）



羽化したての成虫 本部町 6月

トピックス

◎10/27 (土) 大道小学校とんぼ池整備活動 ⇨

◎10/29 (月) 大道小学校4年生 侍従川調べ

◎11/8 (木) 神奈川県横浜川崎治水事務所との
意見交換会

◎11/17 (土) 高舟台小学校学習発表会で5年生
が侍従川について発表

◎11/25 (日) はやま環境フェスタで、侍従川の取り組み講演

◎12/1 (土) 大道小学校ふれあい学習発表会で4年生が侍従川の取り組みを発表

◎12/8 (土) 六浦小学校学習発表会で3年生が侍従川について発表



虫のきょういく座談会

～朝比奈ボーン事件～

参加者：尾上・河本・山田・佐野

10月終わりのとある日曜日、筆者佐野は河本氏（ダボハゼ通信編集長）と上永谷駅で待ち合わせをした。行き先は尾上氏の宅である。住宅地の中を少し迷ったが、‘トンボハウス’と書かれた謎の表札を見てすぐに分かった。

尾上「おお～いらっしゃい！上がって～」

河本・佐野「お邪魔しま～す」

尾上「ビールがないから焼酎でいい？」

佐野「ありがとうございます」

尾上「ええと今日は何だっけ。侍従会の昔の写真と資料だっけ？用意しといたよ！こんなんでいい？写真はみんなフィルムだよ。」

侍従会は今年で20周年を迎える。そして20周年を記念した記念号の会報を作る話が持ち上がっているのだ。そのため、本日は侍従会結成メンバーである尾上氏に昔の写真や資料をお借りするために伺ったのである。

佐野「うわあ～この写真1995年って書いてありますよ！尾上先生若いですね！」

河本「これなんか凄いよ！20年前の山田さん（笑）」

佐野「おお！20年前の山田さんはなんか清楚感がありますね！（笑）」

1995年のハグロトンボ再発見の新聞記事や初代学生部の手書きの会報、侍従会が“だいふる会”だった頃のイベントチラシなど、今や伝説となっている資料がたくさんあった。

河本「侍従会は最初、ふるさと侍従川に親しむ会じゃなくて、大道ふるさとの生き物に親しむ会だったんだよね。それで通称“だいふる会”なんだね！」

尾上「その“だいふる会”がさあ！（笑）子どもが家で“だいふる会”に行ってくるって言ったら、そこの家の人“ライフル会”って聞き間違えて、“ライフル会”って何なんだ！って学校に電話かかってきたことがあって大変だったんだよ～（笑）」

佐野「獺でもすると思ったんですかね！（笑）」



1995年秋クリーンアップ

面白いエピソードである。それから間もなく尾上家のインターホンが鳴った。山田氏の到着だ。話はいったん中断し、尾上氏が用意してくださった料理をいただいた。そして再びファイルを開き資料を探し始める。するとまたまた面白い資料が発掘された。

佐野「この記事はもしかして伝説の“朝比奈ボーン事件”では!？」

河本「何それ(笑)」

説明しよう。“朝比奈ボーン事件”とは、当時大道小学校で国際理解の先生をしていたジョン氏が尾上氏、山田氏らに(無理やり?)連れられて侍従川の支流である朝比奈町名も無き沢を調査した際に白骨を見つけてしまったという事件である。

山田「おお懐かしいねえ!」

尾上「ジョンさん面白い人だったよね!(笑) ボーン! ボーン! って言ってたよね!(笑)」



なお補足として書かせていただくが、朝比奈町名も無き沢はその話の以前にお婆さんの遺体が見つかったことで知られる怨念ある沢である。

山田「俺はその骨を持って帰って展示したかったんだけどジョンさんが『ヤマダサン!」

ダメデスヨ! ソレハ、ニンゲンノ“ボーン” デスヨ!』って大反対するから。」

とにかく当時のジョン氏の慌て様は凄かったらしい。怨念ある怪しい沢に連れてかれ、その地で白骨が見つかり、さらに人間のものである可能性を含んだ骨を持ち帰り展示しようという奇怪な行動をとろうとする日本人に立ち会えば慌てるのは無理もない…

尾上「結局あの骨は警察に届けて鑑定してもらったんだよね?」

山田「そうです! たしか牛の骨かなんかで人骨じゃなかったんですよ。」

ちなみに朝比奈町名も無き沢は現在、“白骨沢”、“白骨谷戸”、“骨バアサン谷戸”などと呼ばれ親しまれている(勝手にそう呼んでいる)。

こうして昔話に花を咲かせながら尾上氏にはたくさん資料をお借りした。20周年記念号に期待していただきたい。



朝比奈骨バアサン谷戸

(おわり)



だより

10月27日(土) **トンボ池エコアップ** きれいになりました。ご協力ありがとうございました。



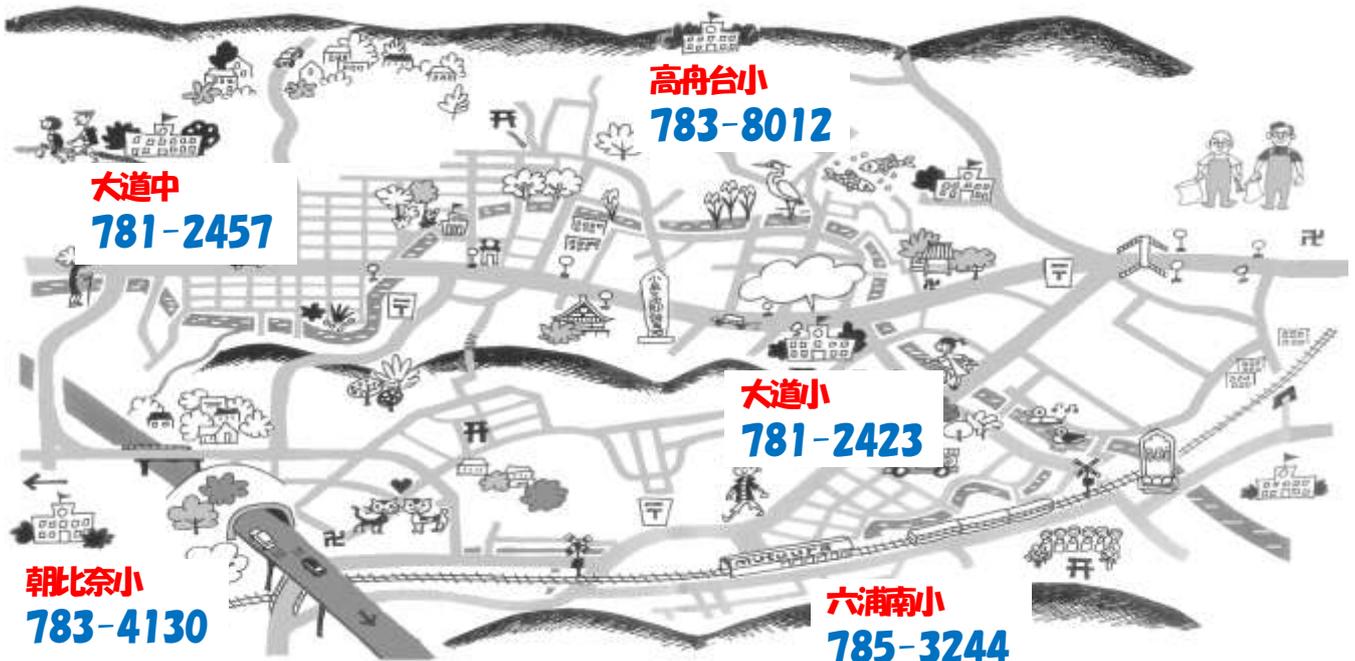
侍従会の原点 大道小学校のトンボ池のエコアップを行いました。総勢50名でヘドロを除去し、砂を入れ、とてもきれいになりました。メダカ、ヌカエビ、ドジョウに各種のヤゴを救出してから作業を始めましたが、生き物の種類も数もだいぶ貧弱になってきていますので、今後は、水生植物を増やしていきます。豚汁は、今年もおいしかったです。

地域って…

家庭・地域でも9年間で大切に育てたい
あひさつができ、街のルールを守る子ども
豊かな感性をもち、気持ちよく人とかかわりあえる子ども

これからも大道中学校区の小中学校は地域との協同を進めていきます。

その中心に流れる侍従川や侍従会は、子どもたちが地域環境を考える上で大きな役割を担っています。みなさんで一緒に未来のことを考えていきましょう。



むかし体験スクール！開校しています。ぜひ参加してください。

伊藤憲生

佐野真吾が語る侍従会の思い出 ～別れの日～

私の連載も今回で20話を向かえました。実は、この連載は始めた頃から書く内容を決めていて、全40話を予定していました。そのため今回でちょうど半分書いたこととなります。というわけで記念すべき20話はどんな話なのか！？というと、今回は親友“タクマ”とのちょっと真面目なエピソードについてお話ししたいと思います。

以前からこの連載を読んでくださっている方はご存じかもしれませんが“タクマ”は、私の同級生です。中学1年生の頃からのクラスメイトであり、侍従会の仲間でもありました。図体に比例した態度のデカさとガサツな性格とはミスマッチに、以外と繊細一途で純粋な一面は憎めないところがありました。

そして学生部隊長の山田さんには常に失礼な発言をくり返しながらも、心底は他ならぬ信頼と親しみ、憧れを寄せていました。ちなみに私との付き合い方はどうであったかという、信頼や親しみがあつたかは定かではありませんが、山田さんと同様に、私に対しても普段から茶化すような発言をし、その都度、当時乱暴で上から目線であった私の肉体的攻撃によりボコボコにされるというのがお決まりでした。しかし、これが二人のふざけ合いでありコミュニケーションでもありました(稀に私も調子にノリすぎてボコボコにしすぎてしまうこともありました…)

タクマと一緒にいるといろいろな問題にも巻き込まれました。例えばふざけ合いが過ぎて二人で池に落ちたり、タクマが教室の電球を割り一緒に怒られたり、一番酷かったのは学校の廊下に置いてある消火器を大噴射させてしまったことがあったり…。

中学2年生になったばかりのある日、いつものようにタクマの茶化しからふざけ合いになり、私の蹴りをくらったタクマが消火器に突っ込んだ瞬間、ピンクの煙が噴射され、廊下の空間がすべてピンクの煙に覆いつくされたのです。あの時はさすがにヤバイと思いました。煙が晴れると全身ピンクの粉まみれのタクマがポンキッキのムックのように立っていました。

その後二人はもちろん生徒指導室へ連行です。当時は真面目キャラで、表面上良い子として世渡り上手に生きてきた私にはなかなかショックな出来事でした。消火器をぶち撒き、生徒指導室に連行なんて問題児じゃん！という感じです。そして上から目線で真面目キャラな私はタクマに対していつも「おまえと一緒にいると本当にロクなことが起こらん！」と言っていた記憶があります。

そんな中学2年生の後半。別のクラスになっていたタクマとあまりコンタクトをとらない時期がありました。別に二人の仲に何かあったわけではなく、ただ学校内で出会わな

ったのです。その時は「まああいつにもクラスに仲のいい友達ができただろう」くらいに思っていました。

しかしある日、校内で出会ったタクマが自分は転校すると私に告げたのです。私はまた嘘について自分を茶化しているんだと思い真面目に聞きませんでした。ところが、そのうち他の友達からタクマが転校するのは本当であることを聞きき、タクマが嘘について茶化しているのではないことが分かりました。さらに、家の都合で田舎の鹿児島に転校するという情報も耳にしました。「あいつ…転校するってホントだったんだ…」タクマはきっと真面目に話をしに来たのに、それに気付けなかった自分に悔しさを感じました。また、今までタクマに対して上から目線で強気な自分を見せてきた私は、今更どんな態度でタクマと会って言葉を交わせばいいのか分かりませんでした。

こうして私は学校でタクマに会わないように、また会っていつものように茶化されても冷たくしてしまうようになってしまいました。「こんなんじゃいけない！あいつは友達でもあるけど侍従会で一緒にやってきた仲間なんだ！」と自分に言い聞かせましたが、なかなか思うようにはいかず時間は過ぎていきました。

そして春休みに入り、いよいよタクマが引っ越し日がやってきました。私はタクマとの接触を避けていたこともあり、具体的な引っ越し日は知りませんでした。そしてその時私は親戚のいる岩手県にいました。そんなおり、私の母の携帯電話に山田さんから一通のメールが届きました。私は母の携帯電話を借りて山田さんに返信すると、「コータ（タクマの名前）今日引っ越したよ！サノシンに会いたがっているよ！」という返事が返ってきました。今思うと、山田さんは私の素直になれない気持ちを分かっていたのかもしれませんが、だからわざとタクマの方から会いたがっているという言い方でメールを送り、最後に話せるように考えてくれたのかもしれませんが。

タクマは最後の日を山田さんの元で過ごしていました。私は急いでメールを打ちました。内容は目も当てられないくらい上から目線で恥ずかしいものであったと思います。でも最後には「鹿児島に行っても頑張れよ！」と、なんとか絞り出した気の利かない素直な気持ちを付け加えました。そして私は母の携帯電話、タクマは山田さんの携帯電話を借りて数通のメールのやり取りをし、まもなくタクマは鹿児島に旅立っていったのでした。

さてさて、話しは現在に戻り、今の侍従会の子どもたちにも度々仲間との別れはあります。現在、侍従会ジュニアで活躍中のダイちゃん(小6)と岩手に引っ越したタックンくん(小6)は親友でした。また同じく小6のミッツーと熊本に引っ越したマコトくん(中1)も親友でした。でも皆、遠く離れた今でもつながっています。きっと仲間とはそういうものなのでしょうね。

侍従会で共に活動したことでできたつながりは、一緒に活動している時はケンカをしたり仲が悪かったりすることもあるかもしれませんが、いつかきっと大切な仲間意識であることに気付くのではないのでしょうか。友達とはまた少し違う“仲間”という言葉の意味を考えるようになって、私は侍従会と侍従会をつくってきた山田さんたち大人の人たちへの感謝と素晴らしさ、そしてその意志を大切にしていきたいと思っています。

P. S. タクマへ！勝手にいろいろ書いてすまん！（笑）でも25話でまた登場させてあげるからよろしくね！☆(上から目線な佐野様より)」

『佐野真吾が語る侍従会の思い出』 つづく

侍従川定例調査報告 学生部

10月13日(土) 10:00~12:00 晴れ

参加者：幼児1名、小学生19名、大人6名

中潮 満潮03:05(171cm)15:27(181cm) 干潮09:13(60cm)21:43(59cm)

【泥牛橋～諏訪橋】(下流域) 10:00~11:00

生物：ゴカイ sp、マガキ、シロスジフジツボ、コウロエンカワヒバリガイ、イシマキガイ(泥牛橋付近の塩分濃度の薄い所)、テナガエビ、チゴガニ、クロベンケイガニ、チチュウカイミドリガニ、ギンヤンマ(成虫)、アカエイ(目視…16:00頃)、マハゼ、チチブ、ウロハゼ

備考：ゴミが少ない。かすみ橋付近で種名不明の二枚貝の殻。

【山王橋～大道東橋】(中流域) 11:00~12:00

生物：カワナ、ミソレヌマエビ、テナガエビ、クロベンケイガニ、モクズガニ、コシボソヤンマ(幼虫)、アキアカネ(成虫)、アユ、コイ、ウグイ、メダカ、マハゼ、チチブ、ウキゴリ、スミウキゴリ、ピリンゴ、ミシシippアカミミガメ、ハクセキレイ

備考：夏以降メダカが増えている。ツクツクボウシがいた。

大道東橋より上流は業者による草刈りが行われていた。

※金沢水の日“侍従川水族館”展示用の魚捕りにて



事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

◆1月～3月の活動予定◆

☆1/19 (土) ネイチャークラフト教室 9:00～15:00

☆2/24 (日) 侍従川定例調査 13:00～16:00

☆3/31 (日) 第27回横浜の水辺と緑を考える子ども会議 (場所未定)

◇定例クリーンアップ 1/27 (日)、2/24 (日)、3/24 (日)

9:00 ちとせ園集合 (2月は大道中ホテル生息地整備) ※雨天延期・翌週日曜

◎葦船学校 (大道小学校にて)

葦刈り 1/26 (土) 10:00～15:00

(予備日1/27)

葦船建造 2/2 (土) 9:00～16:00

2/3 (日) 9:00～13:00

◎活動の詳細 (集合時間・場所、持ち物など) は、ホームページをご覧ください。

<http://jijyukai.web.fc2.com/>

臨時総会のお知らせ

日時：1月19日 (土) 17:00～18:00

場所：大道コミュニティハウス (大道小) 2階多目的室

開催目的：神奈川県が、毎秒50m³の流量を確保する治水対策のために、侍従川の川底を1.2m掘り下げる計画があるという情報を入手しました。この計画が進むと侍従川のホタル、カルガモ、カワセミなどの生き物、葦などの植物の生息域が壊されることとなります。(詳細は、3～4ページ「侍従川浚渫工事について」、又は、侍従川浚渫工事関連資料参照 <http://jijyukai.web.fc2.com/>)

この計画は、侍従川の自然を再生するという侍従会の考え方に逆行するものであり、決して承服できるものではありません。つきましては、会員の方に県の計画を説明した上でご意見をお聞きし、侍従会の総意をまとめたいと思います。

《編集後記》 だぼはぜ通信は、今回で20号となりました。会報に関わっていただいたすべての方々 (原稿執筆、印刷・発送作業、読者) に感謝します。これからも、より充実した会報になるように頑張りますので、ご協力よろしく申し上げます。(MK)

ふるさと侍従川に親しむ会 事務局

金沢区六浦5-23-26

長橋 輝明

TEL&FAX : 781-4042

e-mail : jr-nagahashi@seapple.icc.ne.jp